



ご挨拶

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は議員活動にご理解ご協力、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。また春の愛知県議会議員一般選挙に於きましては、皆様より心強い応援とご支援を賜り、二度目の当選を果たすことができました。誠に有難く、重ねて厚く御礼を申し上げます。

さて5月22日に開催されました臨時議会にて警察委員会副委員長に就任し、迎えた6月定例会県議会での主な内容を報告させていただきますので、ご一読して頂ければ幸いです。

これからも、みよし市・愛知県の発展と市民県民の皆様の福祉向上に努めて参りますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

むすびに皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

県議会議員 林 文夫

「猫の城遊具」を愛・地球博記念公園に整備

「もののけの里」近くの芝生広場に、スタジオジブリ映画『猫の恩返し』の「猫王の城」をモチーフにした遊具を設置。

(滑り台・迷路・ターザンロープ など)
※利用対象は小学生以下

【遊具利用開始日時】

2023年8月4日(金)午前11時

利用料金	4歳未満の方	小学生以下の方	中学生以上の方(※1)
土日祝日・混雑時(※2)	無料	100円	300円
平日	無料		



※1: 未就学児や小学生に同伴する保護者等

※2: ゴールデンウィーク、小学校の春休み・夏休み・冬休み

© Studio Ghibli

6月2日の大雨による被害への対策予算

総額 約51億5,700万円 (外に債務負担行為 約21億8,500万円)

●公共土木施設 約38億5,100万円

道路・橋りょう 55箇所
河川・海岸 72箇所
砂防 10箇所

●農林水産関係施設 約11億4,800万円

農地 312箇所
農業用施設 266箇所
林道 5路線

●社会福祉施設 約1億5,800万円

愛知こどもの国 5箇所
介護事業所 5施設
障害者施設 2施設

『みよし市内の主な被害と対策』

筋生町舟ヶ峪 土砂崩れ



応急対策

過去にも平成29年10月と令和2年10月に台風による崖崩れの対策として治山事業2回が完了。

しかし令和5年6月の大雨により三度崖崩れが発生。直下は住宅地のため抜本的な崩壊対策が必要であり、早期の実施を要望しました。

福谷町大阪池のり面 土砂崩れ (30mバイパスのり面)



応急対策

国の災害査定を受け、「現場打ち法枠工」による崩壊対策を予定しています。

ガードパイプに助けられ土砂が歩道いっぱい堆積しました。人命にも係わることから早期対策の実施を要望しました。

自民党員議員団 総務会長 新海 正春 議員 (岡崎市・額田郡) の代表質問より

交通死亡事故の抑止対策について

問 本年度の交通死亡事故は前年比で増加傾向にあり、全国ワースト2位の現在、下半期の効果的な対策が必要です。警察をはじめ、県民一丸の取り組みが重要と考えます。県警察として交通死亡事故の抑止対策をどのように進めるか

答 弁 本年の交通事故死者数は昨年比べて増加傾向にあり、横断歩行者妨害に起因する事故が依然として発生しているほか、自転車を含む車両運転者の一時不停止や、歩行者の信号無視に起因する事故が増加しており、飲酒運転に起因する重大事故も相次いで発生しております。

5月末の交通死亡事故発生状況につきまして、事故死者の年齢層別では高齢者が約5割を占め、当事者別では歩行者が約4割を占めているほか、交差点における死亡事故が大きく増加しており、全体の約6割を占めております。

こうした特徴を踏まえ、車両運転者に対しましては、事故が多発する時間帯や場所を的確に分析した上で、交差点関連違反や飲酒運転など、重大事故に直結する悪質・危険な違反の取締りを強化してまいります。

また、歩行者に対しましては、横断時における横断歩道の利用や安全確認の徹底、反射材の着用など、自らの安全を守る行動を促す広報啓発活動を推進してまいります。

さらに、交通事故多発交差点における道路管理者と連携した安全対策や、歩車分離式信号をはじめとした交通安全施設の整備等にも取り組んでまいります。



公共事業における働き方改革の推進について

問 建設工事における生産性の向上にはICTの活用が有効と言われており、県発注の土木工事では、ICT建設機械を用いた施工が大規模工事で行われていますが、小規模工事では導入が進んでおらず、市町村発注工事での休日や考慮した工期の設定と合わせた普及が必要と考えます。建設業等の持続的な発展にも寄与する公共事業における働き方改革について市町村を含め、県全体としてどのように取り組むのか

答 弁 道路や河川などの社会インフラは、日本一元気な愛知の産業を支えており、その整備や維持を担う建設業が持続的に発展できるよう、働き方改革を進めることは大変重要であります。

このため、本県では市町村とともに愛知県公共事業発注者協議会を設置し、働き方改革の推進に向け、歩調を合わせて課題解決に取り組んでおり、時間外労働の上限規制が適用される2024年度を目途に、生産性の向上や労働環境の改善を進めております。

生産性の向上につきましては、本県では中小規模の工事など、より多くの工事でICTを活用できるよう、関連する基準の緩和や工種の拡大を実施してまいりました。

今後は、導入の進んでいない市町村の発注工事においても、ICTが普及するよう支援してまいります。

次に、労働環境の改善につきましては、まずは休める環境づくりが重要であり、休日や考慮した適正な工期での発注を、全ての市町村が2024年度までに実施するよう働きかけております。

県発注の土木工事においては、今年度から、原則、週休2日制としており、さらに、年次有給休暇の取得率が高いなど「休み方改革マイスター企業」に認定された企業に対して、インセンティブを導入してまいります。

今後も本県がリーダーシップを発揮し、市町村や建設業界とともに公共工事における働き方改革を推進し、建設業のさらなる発展につながるよう、しっかりと取り組んでまいります。



ラーケーションの導入に向けた実施体制の整備

○ラーケーションの日とは

愛知県全体のワーク・ライフ・バランスの充実を目指す、「休み方改革」プロジェクトの中で生まれた「ラーケーションの日」は、「学習(ラーニング)」と「休暇(バケーション)」を組み合わせた愛知県発の新しい学び方・休み方です。

○ラーケーションの日 活動のポイント

- ・家族で「一緒に過ごす時間」が大切です。
- ・「何について学ぶか」を事前に子供と一緒に話し合ってみてください。そこから「ラーケーションの日」は始まります。
- ・遠くへ行かなくても、身近な場所にも「学びの種」はあふれています。家族と一緒に活動すると、新たな発見があるかもしれません。



様々な学びを体験できるラーケーションスポットをポータルサイトで紹介しています。

警察委員会 横田 たかし 議員 (知多郡第2) の一般質問より

歩道橋直下における横断歩道の設置について

問 歩道橋を利用することができない高齢者や身体に障害のある方が安全に交差点等を横断するために、歩道橋の下に横断歩道を設置することについて、どの様に考えているか

答 弁 歩道橋は、歩行者と車両が物理的に分離されることから、横断歩道よりも高い安全性を有する横断施設であり、交差点における交通の円滑化にもつながるものと考えております。

歩道橋が設置されている交差点につきましては、

- 一般的に、車線が複数で交通量の多い道路であること
- 通常、ドライバーは横断歩道が設置されていないと考えて減速をせず、横断歩行者に注意が向きにくいこと
- 歩道橋の橋脚や階段などで右左折車両と横断歩行者の相互の見通しが確保しにくいこと

などから、横断歩行者の安全確保を図るため、原則として横断歩道の併設は行わないこととしております。その一方で、ご高齢者の方々を始めとする交通弱者の中には、歩道橋の階段を上るのが身体的に困難な方もおられることも承知しておりますので、歩道橋の下への横断歩道併設の要望につきましては、安全性の観点から、道路管理者に対して、当該歩道橋にエレベーター等を設置してバリアフリー化を図るよう働き掛けを行っております。

問 県内には、歩道橋の下に横断歩道を整備している交差点があるが、整備することができる条件はどの様か

答 弁 歩道橋の下への横断歩道の併設は原則として行わないこととしており、道路管理者に対して歩道橋のバリアフリー化を働き掛けておりますが、エレベーター等の設備の設置が困難な場合につきましては、高齢者の方々を始めとする交通弱者の横断需要を踏まえつつ、信号機の歩車分離化や右左折車両と横断歩行者の見通しの確保等の安全対策により、歩行者が安全に横断できる環境が整った場合に限り、横断歩道の併設を行っているところでございます。今後も、バリアフリー化されていない歩道橋が設置されている交差点に対しましては、原則を踏まえつつ、道路管理者と連携し、歩行者保護に必要な安全対策の実施等に応じて、横断歩道併設の可否を検討し、対応してまいります

想 い 高齢者を始めとする交通弱者の方々住み慣れた地域で不便なく安心して日常生活がおくれるように安全を最優先しつつ、歩道橋直下における横断歩道の設置など利便性の向上を図ってまいります。



先進技術を活用した市町村のまちづくりの取組を促進

予算額 20,000千円 (既決予算額 30,144千円→補正後 50,144千円)

県内市町村を対象に、ICT等の先進技術を活用したスマートシティのモデルとなる取組を追加公募・支援し、その成果について他の市町村へ横展開を図ります

- スマートシティモデル事業 県が、市町村と企業等からなるコンソーシアムから、先進技術を活用したまちづくりの社会実験に関する提案を追加公募し、優れた提案を選定・事業委託します。
・分野の例：モビリティ、エネルギー、通信・データ、医療・福祉・健康づくり など
- スマートシティとは ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化により、諸課題の解決を行うとともに、新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域

再発見!地域の史跡を巡ろう

平日は史跡をじっくり見学したり、ガイドさんから詳しく話を聞いたりできます。地元や近隣にも意外と史跡はあるものです。



見つけた!公園の植物を調べよう

庭や公園で見つけた植物について親子で一緒に調べてみましょう。学びのきっかけは身近なところにもたくさんあるはずですよ。



収穫の喜び 家族と一緒に農業体験をしよう

私たちが口にしている野菜は、どんな人の手で育てられ、どんな風に育っているのでしょうか。収穫体験や農業体験など、ふだんできないことを家族と一緒に体験してみましょう。



親子で芸術家!様々な表現方法を知ろう

素敵な風景は初めて訪れる土地だけでなく自宅から近いところにもあふれています。家族で同じ景色を見ながら絵をかき、表現の仕方を比べてみるのもよいでしょう。



五感を使って 自然と仲良くなるよう

景色を味わう、鳥の声を聴く、空気をを感じる...五感を使って、自然に親しんでみてはどうでしょう。観察をおして生まれる発見や問いも大切にしたいものです。



気分はシェフ 授業で学んだことを生かそう

家庭科や総合的な学習の授業等で学んだことを生かして、実際につくってみましょう。家族だけのオリジナルレシピが完成するかもしれません。



